

授業づくりにおける手立ての視点

みんなが取り組み、みんなが好きになる学びを創造するために、授業づくりにおける手立ての視点を整理し、効果的な働き掛けをしていく。

視点1 焦点化【やりがい】

「焦点化」するとは、授業のねらいや活動を絞ることである。単元や本時で子どもに身に付けさせたい資質・能力や見方・考え方を明確にし、焦点化する。ねらいを絞って、活動をシンプルにすることで、どの子どもにとっても分かりやすい授業にする。

- ・課題（問題）の明確化
- ・本時のゴールの明示
- ・活動の簡素化
- ・論点の整理（考えるポイントを明確にする）
- ・発問の吟味
- ・課題に正対したまとめ

視点2 視覚化【分かりやすさ】

「視覚化」するとは、視覚的な手がかりを効果的に活用することである。視覚的な手がかりには、写真、動画、挿絵、グラフ、地図、図表、動作化、劇化などがある。情報を見えるようにして、情報伝達をスムーズにする工夫である。

- ・本時の流れの提示（手順の見通しをもたせる）
- ・考える材料、資料の提示
- ・板書の構造化
- ・ICTの活用
- ・思考ツールの活用
- ・演示実験
- ・教師の示範による基礎的技法の明確な提示
- ・参考作品

視点3 共有化【共に学ぶ】

「共有化」するとは、豊かな人間関係を土台とした話し合いを始めとした様々な交流活動をし、一部の子どもだけが参加する授業にならないように「できそう」「分かった」を共有していくことである。

- ・話し合う活動を始めとした様々な交流活動
 - ・課題に対してペアで話し合う。
 - ・ある子が説明した考えをペアの子に自分の言葉で説明する。（友達の発言を解釈する）
 - ・ある子が書いた考えを別の子が説明する。
 - ・ある子の考えの続きを想像させる。（友達の意見を想像する）
 - ・友達が分かるように説明する。
 - ・友達の意見から良さを見付ける。
 - ・友達の発見を促す。
 - ・実験結果を全員で共有する。
- ・易しい資料から難しい資料の順に提示（易しい資料が難しい資料について考える際の足場になる）

視点4 自覚化【自分自身への価値付け】

「自覚化」とは、学びと生活のつながりへの気付き、自己の成長や変容への気付きにより、子どもが学びを自覚し、学びの実感へとつないでいくことである。

- ・振り返り
- ・一人ひとりのよさを認める具体的な言葉掛け
- ・学習内容と身近な生活との関連